

CMSC JOURNAL

Vol.38

全日本ダートラ(1戦~4戦)

CMSC勢 大活躍!

第1戦荒井信介選手 (CMSC 群馬)

第2戦赤羽政幸選手 (CMSC 山形)

第4戦櫛田正文選手 (CMSC 岐阜)

優勝

逆転! 赤羽



好調! 荒井



復活! 櫛田

写真右上 第1戦1~4位を独占して表彰台に立つ、1位荒井信介選手(CMSC群馬)、2位宝田芳浩(CMSC札幌)、3位北村和浩(CMSC岐阜)、4位赤羽政幸選手(CMSC岐阜)のCMSC勢。

ポイントランキングでも 上位にひしめく大活躍

全日本ダートラ第1～4戦

- 第1戦 三井三池オートスポーツランド
3月13日(土)・14日(日)
- 第2戦 丸和オートランド那須
4月10日(土)・11日(日)
- 第3戦 テクニックステージ・タカタ
5月8日(土)・9日(日)
- 第4戦 ミナミユースランドサーキット
6月5日(土)・6日(日)

'93全日本ダートトライアル選手権第1戦「ラスカルスプリングトライアルin三井」は、3月13、14日の2日間福岡県大牟田市の「三井三池オートスポーツランド」で華々しく開幕しました。

昨年最終戦でデビューウインを飾ったランサーエボリューションが緒戦から勢揃いして今年の熱戦の主役になることを予感させるようでした。

そして、その予感どおりに第1戦で荒井信介選手(CMSC群馬)が優勝。第1戦、1日目は初めてのコースに戸惑いながら各選手慎重な走りに終始していました。2日目の決勝、第1ヒートでは、予選順位とは逆の順番でスタート。各選手とも様子を見ながらのチャレンジとなりました。ベストタイムを叩き出したのは、北村和浩選手(CMSC岐阜)で1分53秒14。最後から2番目にスタートした荒井選手はこのタイムを知った上でのアタック。結果は、0秒24遅れの2位。そして午後からの第2ヒート。ベストタイムをマークした北村選手は相変わらず好調で、1分51秒42と先発選手達を突き放す好記録。優勝争いは、我々がCMSC勢の宝田芳浩選手(CMSC札幌)、荒井選手、榎田正文選手(CMSC岐阜)の3人の結果如何ということになりました。惜しくも榎田選手はリタイアしてしまいましたが、宝田、

荒井の両選手は北村選手を標的に果敢なアタック。「第1ヒートの走りて十分な手応えを感じた。」と余裕のコメントをしていた荒井選手は、宝田選手の1分50秒86を0秒14上回るタイムで見事優勝。北村選手は3位、そして4位には赤羽政幸選手(CMSC山形)が入賞と、CMSC勢が1～4位独占という結果でした。

開幕戦で1～4位独占を果たしたCMSC勢は続く第2戦の「スズキカップSSCCダートトライアル」(4月10日～11日)でも好調。初日の予選のトップタイムこそインプレッサの山下選手に取られはしたものの、北村選手が0秒32差の2位、その後には赤羽選手が続きます。

決勝第1ヒートでは絶対調荒井選手が2分01秒82でトップインプレッサの山下選手は2分02秒21の2位、その直後に宝田、北村両選手がつけて、赤羽選手は03秒台の6位。第2ヒートでは出場各選手積極的なアタックをするも荒井選手のベストタイムには及ばないところへ、赤羽選手の2分01秒21が飛び出す。山下選手も0秒55届かない。優勝争いは残る荒井、榎田の両選手。しかしどちらも赤羽選手のタイムには届かず、結局赤羽選手の見事な逆転優勝となりました。「コースは完璧だったし、よく知りつくしている自信はあった。今シーズンはどうしても3位以内に入ってシードを確保したい。もちろん最終的にはチャンプを狙っています。」とは赤羽選手のコメント。連続での1～4位独占は逃したものの、3位に荒井選手、4位に宝田選手が入って相変わらずCMSC勢の好調振りでした。

続く第3戦、「ダートトライアルin TAKATA」(5月8日～9日)は、決勝で晴れから雨へと天候の変わる中の激戦でしたが、CMSC勢は惜しくも3連勝ならず1、2戦で健闘を見せていた岐阜の北村選手が2位、絶対調群馬の荒井選手が3位、榎田選手

が6位という結果に終わりました。しかし優勝したのは、同じ三菱勢の田口選手。ランサーエボリューションは3連覇と圧倒的な強さです。

そして舞台は秋田県田沢湖に移動しての第4戦。「'93 THE TRIAL IN TAZAWA」(6月5日～6日)では、またまたCMSC勢が大暴れ。

雨の中の予選上位には、荒井信介選手(CMSC群馬)、北村和浩選手(CMSC岐阜)、赤羽政幸選手(CMSC山形)、宝田芳浩選手(CMSC札幌)、それに今シーズンの滑り出しに振るわなかった'92シリーズ2位の榎田(CMSC岐阜)選手が顔を連ねての大激戦。翌日の決勝。小雨になったとは言え依然としての悪コンディション。それでも各選手、闘志むき出しでのチャレンジを繰り返しました。

第1ヒートベストタイムをはじき出したのはベテラン榎田選手。「1本目に全てをかけて全力投球した。」という言葉でもわかるように、穴が掘れ、ギャップの激しい路面の苛酷なコンディションの中での1分30秒90のベストタイムは、第2ヒートで逆転を狙う各選手には大変なプレッシャーとなったはず。

第2ヒートだけならば砂塚明男選手(CMSC山形)の1分31秒76なのですが、それでも第1ヒートの上位選手には及びません。結果は、最後から2番目にスタートした荒井選手が第1ヒートのベストタイムを超えられなかった時点で榎田選手の優勝が決定しました。榎田選手は昨年の第2・3戦を連覇して以来の優勝。実に1年ぶりのベテラン復活といったところ。まだまだいけますね。

CMSC勢は3位に宝田選手、4位に荒井選手、5位に砂塚選手、6位に赤羽選手が入ったの大暴れ。第4戦まででの総合でも、1位荒井選手、3位宝田選手、4位赤羽選手、5位北村選手、6位榎田選手と上位にひしめいています。残り5戦さらに活躍してくれることでしょう。期待しています。



ポイント1位 荒井信介選手 CMSC群馬
ポイント3位 宝田芳浩選手 CMSC札幌
ポイント4位 赤羽政幸選手 CMSC山形
ポイント6位 榎田正文選手 CMSC岐阜



ポイント5位。1～4戦で健闘を見せる北村和浩選手(CMSC岐阜)の走り

AIVクラスシリーズポイントランキング

順位	ドライバー	車名	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	合計
1	荒井信介 (CMSC群馬)	ランサー	20	12	12	10	54
2	山下公男	インプレッサ	0	15	10	15	40
3	宝田芳浩 (CMSC札幌)	ランサー	15	10	0	12	37
4	赤羽政幸 (CMSC山形)	ランサー	10	20	0	6	36
5	北村和浩 (CMSC岐阜)	ランサー	12	4	15	2	33
6	榎田正文 (CMSC岐阜)	ランサー	R	3	6	20	29
7	田口盛一郎	ランサー	3		20		23
8	竹本素信	ランサー	8	8	0		16
9	湯本 敬	ランサー	6	6		0	12
10	田口勝彦	ランサー	1		8		9

ポイント3位。安定した走りでポイントを積み重ねる宝田選手。

